

(別記様式)

令和7年度 京都府立舞鶴支援学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (計画段階・中間評価・実施段階)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	令和7年度 学校経営の重点(短期経営目標)
<p>「よく学び、より鍛え、よりよく挑む」児童生徒の育成のため、目指す学校像の実現を図る。</p> <p>[目指す学校像]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>一人一人の教育的ニーズに応じて先導的で特色ある教育活動を行う特別支援学校</li><li>児童生徒の心と体の健康と安定を図り、安全で安心して過ごせる特別支援学校</li><li>保護者と児童生徒一人一人の願いの実現を目指す特別支援学校</li><li>専門性を生かし、地域の特別支援教育のセンター的役割を果たす特別支援学校</li><li>福祉・医療・労働等の関係機関との密接な連携のもと、教育課題に積極的に取り組む特別支援学校</li><li>家庭や地域社会に開かれ、信頼される特別支援学校</li></ul>	<p>1 日常的な実践の蓄積に加え、研究会を設定し、学部混合障害種別のグループごとの教員による教材交流や障害種別ごとの専門性を高めるための講演等を開催した。</p> <p>2 PTA進路研修会を実施し、市外の福祉施設の見学を通して、卒業後の進路について考えることができた。また、福祉施設への職員研修の機会を通し、高等部以外の職員も卒業後の進路先について、理解を深めることができた。</p> <p>3 清掃活動や製品販売会を通して、地域貢献につながる活動ができた。また、インクルーシブな学校運営モデル事業をきっかけに、交流及び共同学習、居住地校交流の機会を増やし、新たな形での交流に取り組むことができた。しかし、残留体制不足や事前の調整等について課題が残った。</p> <p>4 舞鶴市の教育委員会や乳幼児教育推進課と共催した合同研修会を企画・運営し、市内の就学前から高等学校までのコーディネーターのスキルアップの一助となることができた。</p> <p>5 保護者連絡用アプリの本格導入によって、業務の改善ができた。また、月2回のNO残業デーのうち1回を定時退勤促進日として、個人のニーズに合わせて残業時間を減らす取組ができた。しかし、依然として長時間勤務が常態化している職員も多数存在する点からも、一層の業務の平準化・勤務時間の削減に努めていく必要がある。</p> <p>6 年に3回の避難訓練を計画的に実施することができた。また、不審者対応訓練も実施し、実践的な対応を学ぶことができた。来年度は状況や設定を変え、様々な想定に対応できる訓練にしていく。</p> <p>7 施設設備については、児童生徒の安心安全につながる箇所を優先的に維持管理・整備を行った。老朽化によるものの他、自然災害に起因する修繕も発生したが、今後も教育活動に影響を与えないよう施設設備の維持に努めていく。</p>	<p>1 12年間の系統性のある教育課程を編成し、効果的なICT活用や子どもの行動を踏まえた指導の研究、学部間の連携強化等による魅力ある授業づくりをより一層推進する。</p> <p>2 地域の関係機関との連携を強化し、個別のニーズを踏まえた体験的な学習や職場実習等の機会の拡大、職業教育の推進等、キャリア教育・就労支援等の充実を図る。</p> <p>3 「社会に開かれた教育課程」のもと、社会と目標を共有し、児童生徒の「生きる力」や「働く意欲」を育み、個に応じた社会参加・社会貢献の機会の充実を図る。また交流及び共同学習の教科等を中心とした新たな展開や、連携校との協働等を通じて、共生社会の形成に資する具体的な取組を研究する。</p> <p>4 「トータルサポートセンター(TSC)」は、関係機関及び他の地域支援センター等と連携し、地域のニーズのある子どもに届く支援のさらなる充実を目指すと共に、校内での実践の積み上げを強化し、ニーズのある子どもやその担任・保護者に届く支援を目指す。</p> <p>5 働き方改革をより一層推進していくために、各分掌等において組織の見直し、業務の精選・平準化に取り組んでいく。また、衛生委員会と連携して具体的な改善策を検討・実施していく。</p> <p>6 「安心・安全」な学校生活を児童生徒が過ごせるよう、事故等を未然に防ぐ日常的な安全点検、さらに危機管理体制を整備していく。事故発生時には、スピード感をもって対応し、事後の再発防止に向けた取組に生かせるよう、全校で情報共有・共通確認を徹底することを確認していく。</p> <p>7 事務部は、学校運営に関わる事務の企画・立案及び連絡調整を行い、児童生徒の主体的・対話的で深い学びによる授業改善を実現するべく、効果的な学校運営が行われるよう努める。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
組織・運営	教育目標実現化のため、学校戦略会議の機能を生かして、校内組織の活性化を図る。	学校戦略会議において、各分掌等の役割を明確にし、効果的に活動できるよう、課題整理を行いながら、インクルーシブな学校運営モデル事業に関する校内の取組を進め、地域の小中学校との連携を深めていく。	B	B	<p>・インクルーシブな学校運営モデル事業について多くの取組を進めることができた。また、昨年度の反省を生かし、<u>授業計画を両校で立てて交流を各学部で計画することができた。また、学び支援チームや併任教員を中心に連携強化をすることができた。</u>来年度は事業のまとめの年度になるため、引き続き学校全体でインクルーシブな学校運営モデル事業に関わり、発展的に計画的に進められるようにする。</p> <p>・業務の平準化について、アンケートを取って検討・再編を始めた。引き続き校内組織、校務分掌、会議設定、会議参加者の見直しに取り組んでいく。</p> <p>・年に3回の避難訓練を状況や設定を変えて計画的に実施することができた。また、不審者対応訓練も実施し、実践的な対応を学ぶことができた。来年度も様々な想定に対応できる訓練になるように設定考えて実施していく。</p> <p>・学校運営協議会では、障害のある子ども・人たちの余暇及び居場所について、現状把握、保護者アンケートによるニーズの把握を行い、年間を通して熟議を行った。第2回目のときに、舞鶴市教育委員会の方にも参加いただき、<u>舞鶴市の地域移行「まいかつ」に本校生徒が参加するためにはどうしていけばいいかを意見交換することができた。</u></p>
		校内組織や校務分掌業務の見直しを図り、業務の平準化に向けて取り組む。	B		
	学校危機管理会議を中心に、学校の安全管理体制を整え、児童生徒の安心・安全を守る。	機能的な危機管理体制を整え、日常的な点検や災害対応訓練等を適切に実施する。	A	A	
		地震や火災、土砂災害を想定した実践的な避難訓練を実施する。	A		
	学校運営協議会による地域とともにある学校経営に努める。	学校運営協議会を年間3回開催し、助言を得て学校運営の活性化や見直しを図る。	A	A	

教育課程の編成と実施	「つきたい力(健康な心身・生活に生きる確かな力・豊かな人間性と社会性)」を踏まえた教育課程を編成し、実施する。	インクルーシブな学校運営モデル事業に関わって、教科を中心とした交流及び共同学習等の内容を教育課程に位置付け、実施に向けて調整する。共生社会の実現に向けて「つながり合う」関係の構築を目指す。	A	B	<p>・城南中学校区の小中学校と「教科でつながる」という視点で多くの学級が交流および共同学習を教育課程に位置付け、年間を通して実施した。教科においてそれぞれの目標を達成しながら児童生徒同士のつながりを深めることができた。また、指導者においてもユニバーサルデザインの授業づくりや小中学校の教科書を基盤とした学習内容や系統性について学ぶ機会となった。</p> <p>・個別の教育支援計画を保護者と確認し、目標や教育内容を共有することができた。</p> <p>・「居住地縦割り学習」を年間6回実施し、同じ地域に住む児童生徒同士の交流を深めることができた。また、学部を超えた指導者間の連携も生まれ、全校で児童生徒を指導する支援体制づくりがスタートできた。さらに他学部の指導者間交流等を進めていきたい。</p> <p>・毎月の授業振り返り日には、学級やグループごとにその月の授業内容や時数をまとめたり、今後の単元や授業についての打ち合わせをもったりした。活用しやすい年間指導計画の作成を目指し、よりよい方法について検討していきたい。</p> <p>・学校生活の取組や学習や様子等をこまめに家庭に連絡し、基本的な生活習慣や生活リズムの安定などについて連携することで心身の健康を支えることができた。</p> <p>・毎学期実施する「にこにこチャレンジ」をきっかけに生活習慣や集団生活でのルール、マナーなどを身に付け、それを日常生活に汎化することができた。(小)</p> <p>・毎月目標を設定し、生活習慣やマナーについて意識して取り組むことができた。また、それぞれに振り返りをしたものをキャリアパスポートに保存することができた。(中)</p> <p>・授業等で勤労観を養いながら進路希望の実現や生活の質を高めることに取り組んだ。(高)</p>
		保護者や他機関との連携をより一層進めるために個別の教育支援計画の活用を図る。	B		
		「居住地縦割り学習」に取り組み、全校で児童生徒を見る体制づくりを行う。児童生徒自身が地域の友達を知り、社会性の向上を目指すとともに、日常的な学部間の連携を通してカリキュラム・マネジメントを進める。	A		
		毎月授業振り返り日を設定して授業改善に努め、年間指導計画を見直す。	B		
		生活リズムを整えるとともに、体の学習などを通して健康維持のための取組を充実させる。(健康な心身)	A	A	
		家庭と連携を図りながら、「日常生活の指導」等を通して生活習慣を身に付ける。(健康な心身)	A		
		働く力や生活する力の基礎となる取組を進める。(小学部)(生活に生きる確かな力)	B	B	
		体験的な学習を通して、働く力や生活する力を高めるための指導を充実させる。(中学部)(生活に生きる確かな力)	A		
作業学習や進路学習などを通して、進路希望の実現及び生活の質を高めるための指導を重点化して進める。(高等部)(生活に生きる確かな力)	B				
集団の中で役割を果たしたり、協力したりして、達成感を持てる活動を充実させる。(豊かな人間性と社会性)	B	B			
文書情報管理	個人情報の適切な管理を行う。	個人情報にかかわる書類や電子データについて適切に管理し、情報の保護に努める。	B	B	・個人情報に関わるデータ等を適切に管理できるよう努めた。

生徒指導	児童生徒の基本的な生活習慣を確立し、主体性、協調性、社会性を養うために、全教職員が総力を挙げて指導にあたる。	学校生活のルールやマナーが身に付くように、教育活動全体の中で指導を行う。	B	B	<p>・学校間をまたいでの子供指導上の事象が数件あったが、早期に管理職、担任とともに情報共有をすることで対応することができた。保護者や他校とも連携を継続的に行っていく。また、今後も児童生徒の様子を観察し、早期発見・早期対応を行い未然防止につなげていく。</p> <p>・高等部の委員会活動では、各委員会が様々な工夫を凝らして、多様な活動に取り組むことができた。高等部の取組を学校内にも発信を行い、活動内容の充実を図っていく。</p> <p>・舞鶴警察署と連携し、今年度も交通安全教室が実施できた。児童生徒の実態に合わせたDVD教材等を用意していただいたが、途中で止まることもあったため、教材を考えていく必要がある。今年度は歩行と自転車訓練を同時進行で行った。障害物を置いていたことで手本が見えにくくなったため急遽タブレット端末を活用して映した。来年度も同じように取り組む場合、障害物の配置や進め方を検討していく必要がある。</p> <p>・舞鶴警察署のスクールサポーターと連携して、非行防止教室と薬物乱用防止教室を行った。近年の状況を踏まえSNSの内容を組み込んでもらえてよかった。昨年度と同様、非行防止教室を保護者参観としたが、参加人数が少なかったため、高等部Bグループの保護者にも急遽案内を出した。年度当初から高等部の保護者対象にするなど検討を行う。</p>	
		児童生徒の子供指導上の事象について、課題を教職員間で共有し、保護者や地域及び関係機関と連携を図りながら迅速に対応する。	A			
		府の方針に基づき、本校のいじめ防止基本方針を児童生徒の実態に合わせて改訂し、いじめ防止及びよりよい人間関係づくりに努める。	B			
		生徒の主体性・協調性・社会性を養うために、高等部委員会活動の充実化を図る。	A			
安全・防災教育を推進し、児童生徒の実態に合わせた指導の充実を図る。	児童生徒の実態に合わせた、交通安全教室、薬物乱用防止教室等を実施する。	B	B	<p>・家庭訪問で中・高等部の保護者に携帯電話についての調査を行い実態把握を行うことができた。SNSでの生徒同士のトラブルについて数件報告があがっているため、現状を踏まえ指導にどう反映させていくか引き続き検討していく。今年度はNTTドコモが主催するスマホ・ネット安全教室に申し込み、オンラインで講義を受けることができた。実態に合わせて学習内容を選択できたためよかった。</p> <p>・不審者対応訓練の前にさすまたの場所や使い方を事前学習する時間を設けた。また1回目の訓練の後で振り返りを入れることで次の訓練に活かすことができた。高等部棟に2回侵入だったため、来年度は侵入してもらう棟を決めるなどして、多くの指導者が訓練に参加できるように検討していく。</p>		
	児童生徒の携帯電話保持率を調査し、スマホ安全教室等での指導の充実を図る。	B				
	笛や名札の携帯について注意喚起を行い、不審者対応意識の向上を図る。	A				
人権教育	人権教育について、教職員の認識を深め指導力の向上を図る。	人権研修会を実施することで、教職員の人権意識を高め、教育活動全体を通して人権に関わる取組を行う。	B	B	B	<p>・2学期末に人権研修を行った。「同和問題」をテーマに京都府教育庁の人権教育室から来ていただき講話を聞いた。同和問題についての歴史や京都府の人権教育の理念について学ぶことができた。</p> <p>懇談日のない日に設定したが、急遽懇談や出張などが入る指導者が多数いたため後日視聴できるようにした。時期の検討が必要である。</p>

進路指導	小学部から高等部までの進路指導の充実を図る。	12年間を見通した進路指導計画に基づき、家庭と連携した指導をする。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統的なキャリア教育の視点で個々の目標を設定し、小学部から高等部が一定期間に取り組むことができた。</li> <li>・キャリアパスポートの取り組みの内容について、教職員で協議する機会をもつことについては、今後の課題である。</li> <li>・PTAの研修会において、これまで紹介していなかった特例子会社の見学を行った。多くの保護者の方が参加され、卒業後の進路についての興味・関心につながった。</li> <li>・児童生徒個々の実態や進路希望に沿って、体験や学習内容を設定し、計画通りに進めることができた。</li> <li>・懇談を通して本人・保護者との共通理解を図り、個々のニーズに応じた進路を進めることができた。</li> <li>・多岐にわたるケースを中心に、関係機関と連携を図り、進路決定に向けて進めることができた。</li> <li>・教職員の進路全体研修会で、障害者年金や親なき後の経済的な課題などを知ることができた。</li> </ul>
		キャリアパスポートの取り組みから、自己理解につながる指導・支援を行う。	B		
		PTAと連携してニーズに応じた研修会の機会をもち、情報提供を行う。	A		
	体験的な学習の設定など、進路指導計画を基に、指導の充実を図る。	個々の児童生徒について、体験、実習のねらいを共通認識して指導に当たる。	B	B	
		一人ひとりのニーズに応じた進路学習・進路指導の充実を図る。	A		
関係機関からの情報収集に努め、進路開拓に取り組む。	進路連携会議を開催し、ハローワーク、行政、生活支援センター、福祉施設等と連携を図る。	A	A		
進路研修を実施し、実践に生かす。	全体研修会、職員の施設研修、保護者の施設見学について検討し、実施する。	A	A		
研究・研修	研究主題「個別の指導計画に基づいた授業づくり～道徳に視点を当てて～」のもと授業研究を進める。	学部・グループ研究会を計画的に行い、個別の指導計画を基に道徳に視点を当てた授業づくりを進める。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部研で教科学習における道徳的な観点や内容、道徳的な心を育むための発問等を話し合い、学級やグループで授業の計画や振り返りを行うことができた。</li> <li>・2学期に各学級が公開授業を行い、道徳的な観点を入れた指導略案や振り返りを記入し、授業資料集を作ることができた。</li> <li>・公開授業の参観については課題が残る。</li> <li>・タテ研や年度末総括研では、他学部の教職員とグループを組むことで、それぞれの学部の授業内容や目標について学び合うことができた。</li> <li>・研修案内を回覧等で全体に周知することができた。</li> <li>・研究部だよりを通して、学部・グループ研やタテ研の様子や資料共有を行うことができた。</li> </ul>
		公開授業を行い、教科学習における道徳的なねらいや指導について、教職員の理解を深める。	B		
	外部専門機関との連携、様々な事業の活用、相互研修等、様々な形式で研修会の充実を図る。	校内研修会や授業交流等を通して、教員相互が学び合い、高め合う環境づくりを進める。	A	B	
		事例研修会や講演会、出張資料回覧等を通して、教職員の専門性や指導力を高める。	B		
研究・研修に関する情報・資料・文献等を収集・提供する。	教職員回覧や資料・文献閲覧場所を整備して、自己研修を進める。	B	B		

健康 安全 教育	計画的な健康安全教育を推進する。	保健教育・性教育の年間指導計画を立て、各学級やグループで指導を進める。	B	B	<p>・各学級・グループごとに年間指導計画を立て、計画に基づいて指導を進めることができた。また、近年の性教育の方向性(包括的性教育)を学ぶため、分掌内で伝達研修を実施することができた。今後は、教職員研修等を計画・実施して、時代に対応した性教育を周知・充実させていく必要がある。</p> <p>・毎月の部会で各学部の児童生徒の様子を交流して健康状態について共有するとともに、個別の課題に沿って保健指導を進めることができた。<u>緊急対応が必要になる児童生徒については関係者がマニュアルに沿って訓練を行ったり、全職員に情報を共有・周知徹底したりすることで、実際の場面でもスムーズに報告・連絡・相談を行うことができた。</u></p> <p>B</p> <p>・緊急時の対応がより迅速にできるよう緊急時のマニュアルを見直し、次年度当初から運用できるように進めた。</p> <p>・毎月ヒヤリハットの回覧をし、全校で共有して安全に努めることができた。</p> <p>・毎月の安全点検の実施により、修理が必要な場所・危険な場所を挙げて改善し、環境の安全・美化に努めることができた。</p> <p>・学期初めには全職員による校内清掃、長期休業中には洗濯槽の掃除、掃除用モップの洗濯等を行うことができた。今後も日常的に校内を整理整頓・清潔に保つことを心掛けていく。</p>	
	健康に関する一人一人のニーズを把握し、日常場面で指導を進める。	アレルギーや発作対応等、緊急時に即時対応できるよう、緊急時対応マニュアルを活用して担任や各部署、関係分掌とが連携しより適切に対応できるようにする。	B	B		
	校内の環境美化を進め、望ましい環境作りを行う。	日常的に使用教室等の清掃や整理整頓、清掃指導を行うとともに、定期的に安全点検を行うことで、望ましい学習環境づくりに努める。	B	B		
食に 関する 指導	安全に給食その他の摂食を伴う指導が実施できるように、指導の充実や環境の整備を図る。	「食に関する指導のガイドブック」を活用し、安全管理(嚥下調整食・アレルギー対応食等)や衛生管理を図り、安全に食に関する指導を行う。	B	B	B	<p>・4月に「食に関する指導のガイドブック」の配布や全体研修、5月の学部会で窒息の初期対応研修など、安全面、衛生面の共通理解を図った上で給食をスタートさせることができた。</p> <p>・地域とつながった食材を取り入れた献立や、季節の行事を意識した献立、「野菜の日の取組」「和食の日の取組」などを実施した。また、「給食月間の取組」の特別献立では、万博参加国のメニューを取り入れるなどして食に興味・関心がもてるよう工夫した。</p> <p>・<u>3年に一度の全校災害時想定給食では、感染症対策のため全校で集まったの喫食は難しかったが、各学級で災害時を想定した喫食の体験ができた。</u></p> <p>・安全面や衛生面に留意して、調理実習や玉ねぎの皮むきなどの体験活動が実施できた。</p> <p>・京特研などを通じて、他校との情報共有を図ることができた。</p>
		児童生徒が地域とのつながりや季節の行事等を意識できるよう、食に関する指導の充実を図ったり、情報発信を行ったりする。	A			
		窒息やアレルギー等研修を行い、誤飲による窒息や誤食によるアレルギー事故の防止等、安心安全な食の環境整備を図る。	B			
		感染症対策に配慮しながら、調理実習、体験活動等の実施を広げ、食育を進める。	A			
		府内支援学校の指導者と情報共有や研修会をすることで、教職員の指導力向上を図る。	B			

地域連携	地域とつながる活動を推進することにより、学校に対する地域の理解と信頼を高める。	地域との交流及び地域の人材活用の充実を図り、児童生徒の力を広く地域へ発信する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方のサポートを受けながら、スポーツや文化的活動、販売会、作物の収穫等に取り組むことができた。池内地域の神社(しどり神社)より和太鼓演奏の依頼をいただいたが、年度内の実施には至らなかった。来年度以降実施について年度内に校内及び先方と検討する。</li> <li>・近隣小中高の学校間交流は、地域連携以外での活動等も鑑みて、その都度内容の重なりがないよう検討を行いながら、年度当初の計画回数通りに交流を実施することができた。</li> <li>・小学校の居住地校交流は、校内体制の協力を得て、運動会参加等の直接交流と作品を通じた間接交流を実施できた。</li> <li>・中学校の学校間交流は回数の増加や地域の清掃活動を共同で行うなどの内容の広がりが見られたが、居住地校交流は、間接交流にとどまる形となった。城南中との学校間交流は継続できそうであるが、舞鶴市内の他の中学校との交流及び共同学習の展開は、追及できなかった。</li> <li>・高等部の学校間交流時に鑑賞させていただいた西舞鶴高校生徒の制作物を本校学校祭で掲示することができた。展示されることが西舞鶴高校生の意欲にもつながっているようで、交流の成果が波及している。</li> <li>・近隣の小、中学校や施設から作品を拝借し、地域作品展を開催することができた。校内図工美術担当の作品展と業務整理が必要であった。</li> <li>・<u>連合作品展終了に伴い、小学部では間接交流として作品交流へ切り替えて対応することができた。</u>その際、役割分担に偏りが出たことや各校日程のばらつき等で実施に関わる負担は多く、継続して実施するには課題が残る。</li> <li>・ハローワーク舞鶴、モスバーガー、舞鶴赤十字病院での定期的な作品展示を行うことができた。</li> </ul>	
		ボランティア活動や学校行事等の機会を通して、地域貢献する活動を推進する。	B			
	近隣の学校との交流及び共同学習を推進する中で、社会性や思いやりの心、豊かな人間性の育成を図る。	交流及び共同学習で地域とのつながりを深めつつ、継続的に取り組むことができる形態を模索する。(舞鶴市内の小中学校との居住地校交流、城南中ブロックの各校・舞鶴市内府立学校との学校間交流)	B	B		
地域での作品展に出展し、本校の教育への理解を図るとともに、児童生徒の表現・創造意欲の育成と個性を伸ばす。	児童生徒の作品を地域の公共施設や企業等で展示するとともに、地域の文化行事等へ積極的に出展する。	B	B	B		
広報活動	地域とつながり、地域に貢献する学校として、学校だよりや学校ホームページ、新聞などにより、本校教育の特色を積極的に発信し本校への理解が深まるようにする。	本校教育の取組や児童生徒の活躍を伝える学校だよりを作成し、地域社会に配付する。	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の授業実践や地域とのつながりをねらいにした実践など、本校教育の特色が詰まった内容を地域社会に発信することができた。</li> <li>・学校だよりの発行・発送後に間違いが分かり、訂正することがあった。</li> <li>・<u>2学期よりInstagramを開設し、計画的・タイムリーな更新を行うことができた。</u></li> <li>・Instagramの開設に伴い、ホームページの更新頻度が落ちてしまった。</li> <li>・新聞取材依頼では、毎月各学部の実践を募り取材依頼をしてきたが、実際の取材につながるケースがかなり少なかった。</li> </ul>
		学校行事・学部行事、その他様々な学習など、新聞各社へ取材依頼を行い、本校教育活動を積極的に発信する。	C			
		学校ホームページの管理・更新を計画のもと適切に行う。	B			
		著作権やモラル、児童生徒のプライバシー保護に努め、責任をもって広報活動を行う。	B			

情報・視聴覚・図書館教育	学校の情報化を推進する。教職員の情報機器活用能力を高める取組を行う。	研修や出前授業を通して、教職員のICT・ATの活用等、情報教育に関する意識や技術の向上を図り、校務や教育活動に生かせるようにする。	A	B	<p>・各種研修を行い、動画編集やプレゼンテーションアプリを活用した実践や発表が増えた。</p> <p>・クラウドサービスの活用で情報共有が円滑になった。</p> <p>・情報モラルに関する資料を新しく作り直し、全校で確認するなど周知を行った。</p> <p>・タブレット端末を活用した授業実践が増えた。</p> <p>・タブレット端末の取り扱いの校内規定が曖昧だったため、紛失につながった。</p> <p>・貸出物品の増加に伴い点検等の管理はしていたが、無断持ち出しが多く、管理しきれなかった。</p> <p>・機器劣化に伴う不備が多くなってきたが、管理しきれなかった。</p> <p>・希望図書の選定を行い、児童生徒の実態に応じた本を配架することができた。</p> <p>・ブックトーク、人形劇を実施し、物語や本に触れる機会を作ることができた。</p>
		「GIGAスクール構想」に基づいて、一人一台タブレットを配布し個別最適化した学習を進めていく。	B		
		クラウドサービスの活用により、各種情報が適切に共有、活用されるようにする。	B		
		ネットワークのセキュリティポリシーについて、教職員に周知徹底する。	B		
	視聴覚機器を適切に管理する。	視聴覚機器の利用方法について、教職員に研修を行う。	A	B	
		貸し出し簿を作成し、機器を適切に管理する。	C		
	児童生徒が読書に親しむ機会を提供する。	児童生徒の実態に応じた選書を行い、図書の充実を図るとともに、本に触れる機会を提供する。	A	B	
		児童生徒が利用しやすいように図書室の環境整備をする。	B		
センター的役割	関係機関と連携し、ニーズに基づいた相談・支援を行い、地域の支援力の向上につながる活動を行う	適切なアセスメントと具体的な支援につながる相談を行う。また、相談後3か月をめぐりに電話聴取だけでなく、メールなども活用しながら状況の把握に努め、継続した相談を行う。	A	A	<p>・ニーズに応じた教育相談の実施及び各機関との密な連携により、アセスメント力の向上と支援の充実を進めることができた。</p> <p>・高等学校への巡回教育相談件数がほとんどなく、連携していく必要がある。</p> <p>・通級による指導の担当教員などと連携・協働した巡回教育相談ができた。</p> <p>・SSCコンサルテーション事業を活用して、地域支援コーディネーターのスキルアップにつなげることができた。</p> <p>・舞鶴市の教育委員会や乳幼児教育センターと共催した合同研修会を企画・運営し、市内の就学前から高等学校までのコーディネーターのスキルアップの一助となることができた。</p> <p>・校内スタッフを積極的に活用するために、巡回教育相談等への同行希望者を校内で募った。地域の小中学校へ同行した事例がいくつかあった。</p> <p>・『多層指導モデルMIM』を3つの小学校で実施した。</p> <p>・校内スタッフを計画的に活用することができなかった。</p>
		外部専門家、通級による指導の担当教員などと連携し、協働した巡回教育相談を行う。	A		
		関係機関と地域特別支援連携協議会を構成し、支援状況を共有し、機関連携をする。	A		
		舞鶴市教育委員会、乳幼児教育センターと共催した『特別支援教育合同研修会』を充実させ、特別支援教育コーディネーターのスキルアップに寄与する。	A		
	京都府スーパーサポートセンターや京都府北部の地域支援センターと連携し、情報共有を行うとともに、地域支	「北部地域支援センター連絡会」において、北部の現状・課題を共有するとともに、地域支援コーディネーターのスキルアップに努める。	B	B	
	地域支援センターについての校内の理解を深め、関係部署と連携して校内の支援力の向上を図る。	校内の巡回教育相談員と計画的に巡回教育相談へ出向き、巡回教育相談員のスキルアップを図るとともに、研修会等を充実させ、教職員の専門性の向上に努める。	B		
	事務部	児童生徒が、深い学びを実現できるよう支援する。	学校施設の維持管理及び学校環境の整備を行い、学校機能の維持向上に努める。	A	
教材教具の新規購入や更新を計画的に行い、児童生徒の学びがより深いものになるよう支援する。			B		

<p>学校関係者 評価委員会 による評価</p>	<p>インクルーシブな学校運営モデル事業について ・年間約70回の交流及び共同学習を実施できたこと、教科での繋がりについて模索された中、できたということに成果を感じる。自然な関わりがそのときだけでなく、地域の場所にも広がっているとのことで、そのことは大事である。</p> <p>学校の働き方改革に関わって ・教職員もAIを有効活用して負担軽減になればいいのではないかと。先生方の苦労は身にしみて分かる。</p> <p>学校広報の情報発信について ・本校、分校ともに拝見している。保護者からも手軽で便利になったという声を聞いている。</p> <p>外部機関を利用した授業について ・交通安全教室、SNS教室と、子ども達の将来に向けての学習をされていて素晴らしい。卒業後にそういったトラブルに巻き込まれる可能性があるため、継続していただきたい。</p> <p>キャリアサポートについて ・分校でも作成されるとのこと、システム作りが大切である。</p> <p>ICT・ATについて ・分校の児童生徒だからこそ、ICT・AT活用が有効的であると感じる。引き続き、活用を進めていただきたい。</p>
<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<p>・インクルーシブな学校運営モデル事業の最終年度として、持続可能な形を模索していく。 ・AIやICT・ATの技術を有効活用して、子ども達への指導力向上や教職員の働き方を変えていく。 ・タブレット端末の取り扱いについて、校内規定を明確にして、管理徹底を図る。</p>